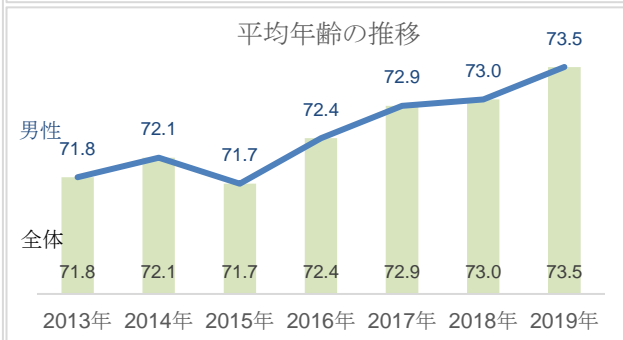
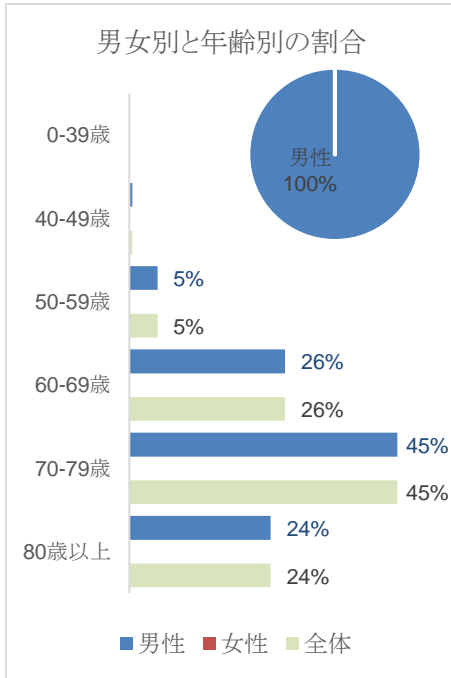


● 1 診断 ●

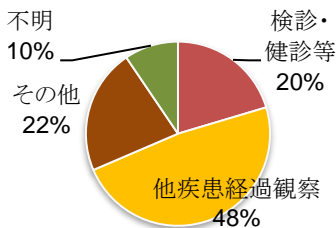
● 1-1 登録状況 ●

前立腺がんは男性にのみ発生するがんです。登録患者の平均年齢は73.5歳(2018年全国集計の平均値は73.2歳)で、上昇傾向です。



◆ 1-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-16)
(付録資料:表B-13)
(付録資料:表C-13)
(付録資料:表D-13)

● 1-2 がんが発見される経緯 ●

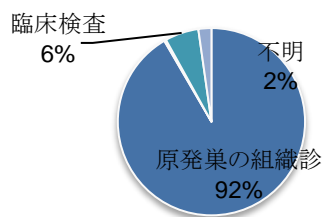


前立腺がんが発見される経緯として最も多いのは「他疾患経過観察中」で48%です。がん検診・健康診断、人間ドックなどで発見された割合は20%です。

PSA検診高値で、医療施設で経過観察中に診断されたものは「他疾患経過観察中」にあたります。

◆ 1-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表F-13)

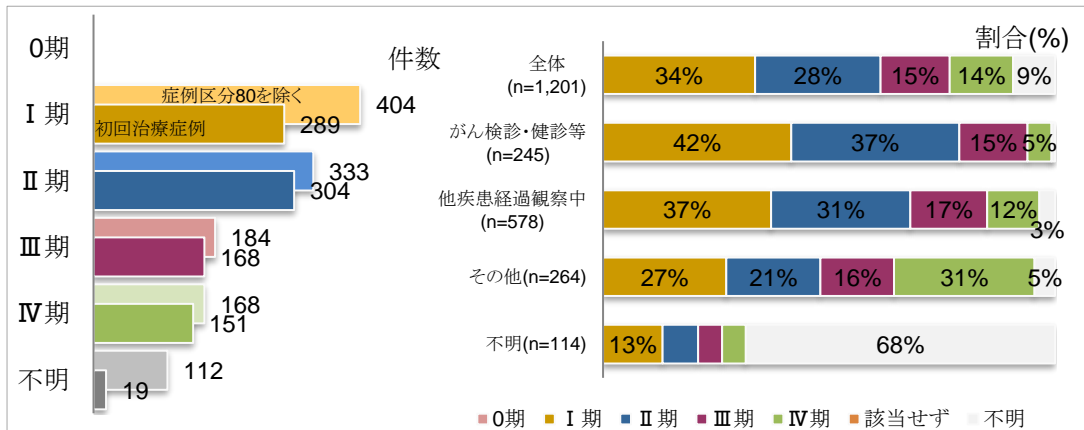
● 1-3 診断 ●



◆ 1-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表G-13)

● 1-4 病期(総合ステージ) ●

病期の評価対象である1,201件のうち、I期が34%、II期が28%、III期15%、IV期14%です。



◆ 1-4 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Y-3)
(付録資料:表Y-4)
(付録資料:表H-13)

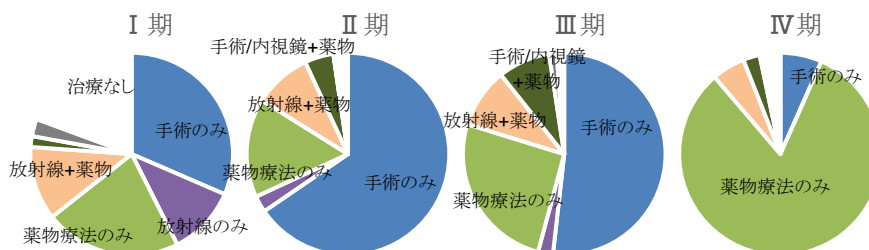
● 2 治療 ●

● 2-1 前立腺がんの治療 ●

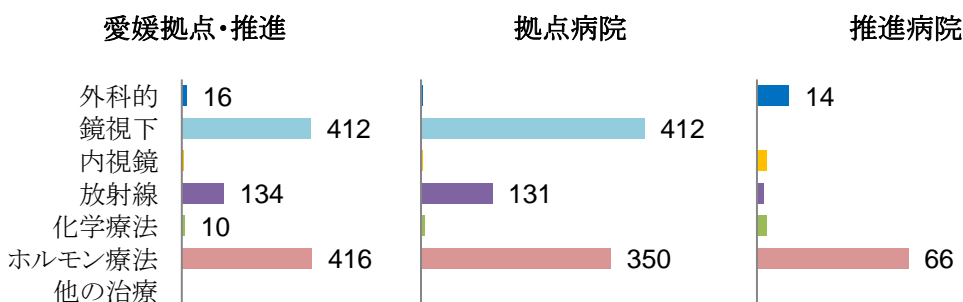
ステージ別の主な治療法は、I期は手術のみ(31%)、薬物療法のみ(22%)、II期とIII期は手術のみ(65%、52%)、IV期は薬物療法のみ(82%)です。I期は治療なし(いわゆるwatchful waitingを含む)の割合が19%を占めています。

◆ 2-1 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Y-5)

	stage I		stage II		stage III		stage IV	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	91	31% (14%)	199	65% (49%)	87	52% (35%)	10	7% (4%)
放射線のみ	32	11% (10%)	7~9	(4%)	4~6	(1%)	0	0% (0%)
薬物療法のみ	63	22% (45%)	48	16% (35%)	43	26% (53%)	124	82% (87%)
放射線+薬物	34	12% (4%)	28	9% (3%)	16	10% (3%)	7~9	(4%)
手術/内視鏡+薬物	4~6	(3%)	14	5% (2%)	14	8% (4%)	4~6	(2%)
上記以外の組合せ	7~9	(2%)	0	0% (1%)	1~3	(1%)	1~3	(1%)
治療なし	56	19% (23%)	7~9	(6%)	1~3	(4%)	4~6	(3%)
合計	289		304		168		151	



● 2-2 各治療の件数 ●



◆ 2-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Y-6)

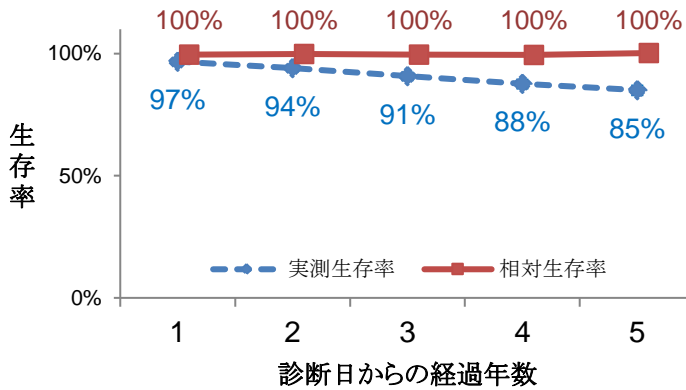
● 3 予後 ●

● 3-1 5年相対生存率 ●

2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率85.1% (95%信頼区間 83.0 - 87.0)、相対生存率100.3% (95%信頼区間 97.8 - 102.4)でした。集計対象数は1,258、年齢別では60歳代35%、70歳代45%、80歳以上14%です。ステージ別の内訳は、I期が42%、II期 32%、III期 13%、IV期 12%となっています。

	N	実測生存率		相対生存率	
		95%信頼区間		95%信頼区間	
		1	2	1	2
1年	1,216	0.967	0.956 0.976	0.996	0.985 1.005
2年	1,177	0.940	0.926 0.952	0.998	0.983 1.011
3年	1,128	0.908	0.891 0.923	0.996	0.977 1.012
4年	1,086	0.877	0.857 0.894	0.995	0.973 1.014
5年	1,047	0.851	0.830 0.870	1.003	0.978 1.024

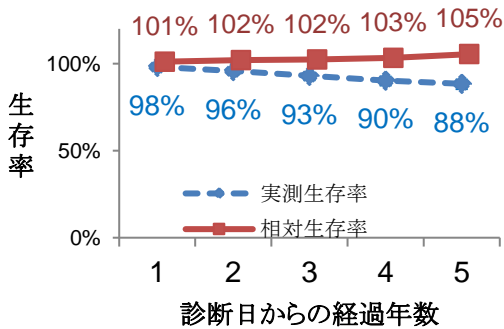
*予後判明率 98.0%



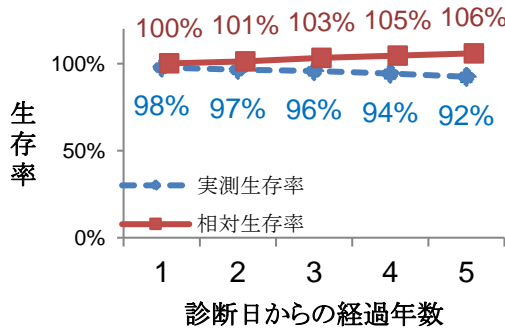
◆ 3-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く

● 3-2 ステージ別 5年相対生存率 ●

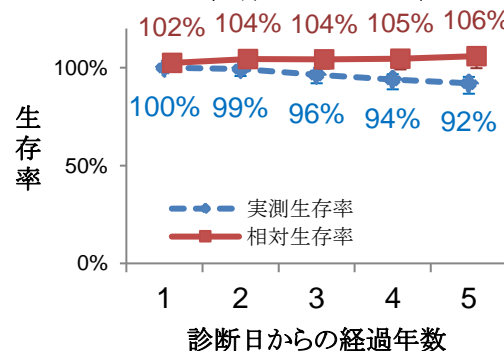
総合ステージ I (N=533)



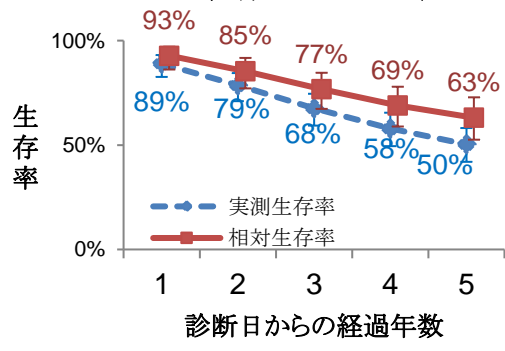
総合ステージ II (N=403)



総合ステージ III (N=164)

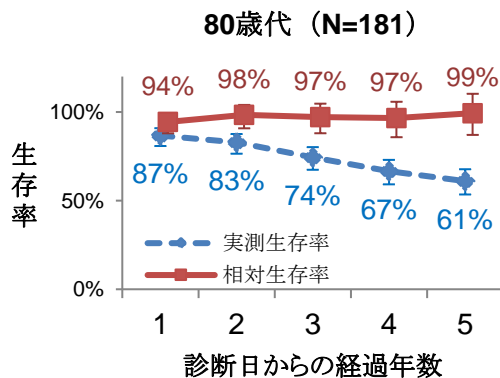
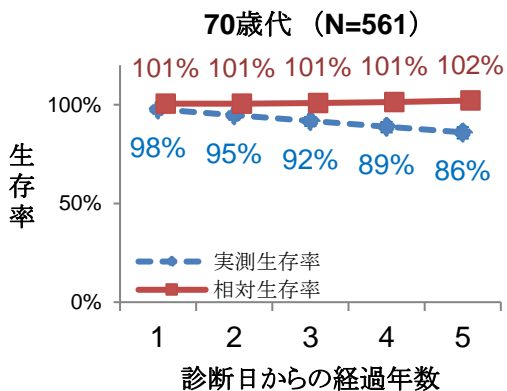
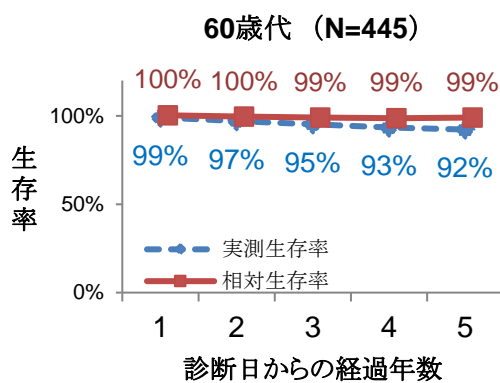
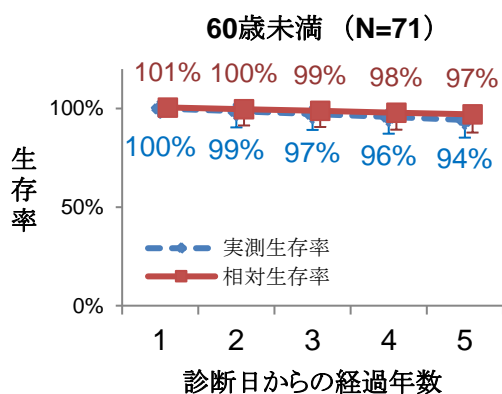


総合ステージ IV (N=145)



◆ 3-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2012-2013年診断
▶症例区分2,3のみ
▶100歳未満
▶総合ステージ
0期除く
(付録資料:表m-1)

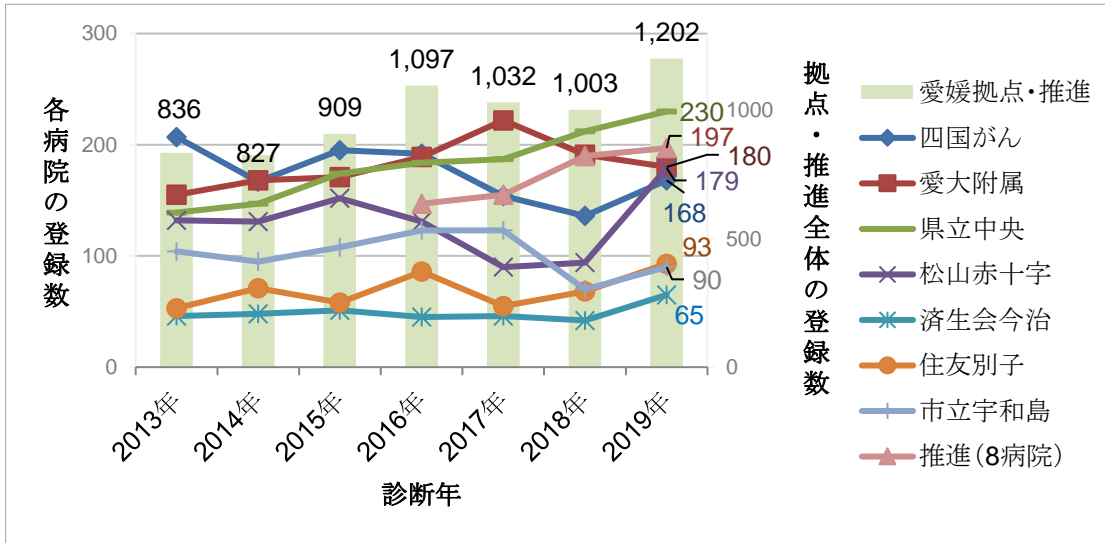
● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●



◆ 3-4 資料
 院内がん登録
 集計対象:
 ▶拠点のみ
 ▶2012-2013年診断
 ▶症例区分2,3のみ
 ▶100歳未満
 ▶総合ステージ
 0期除く
 〈付録資料:表m-3〉

■ 4-1 登録件数の推移 ■

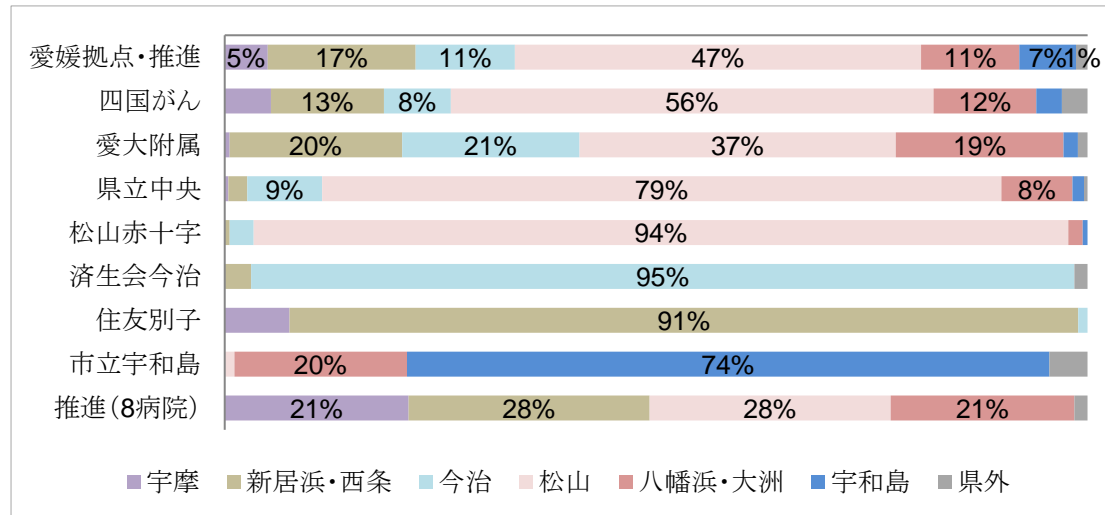
前立腺がんの2019年診断症例の登録件数は、県全体で1,202件です。2016年診断症例から推進病院の登録情報が加わっています。



◆ 4-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-16)

■ 4-2 診断時の住所(二次医療圏別) ■

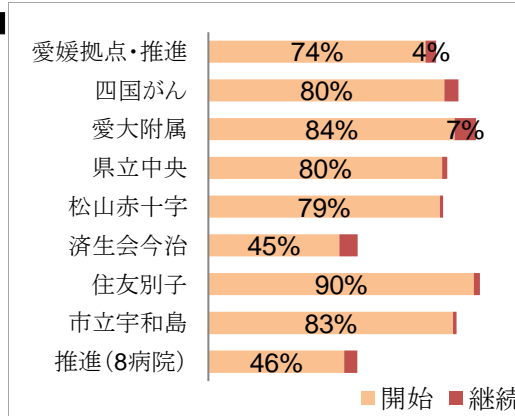
診断時の居住地域の割合を示しています。拠点・推進病院全体では47%が松山圏域の患者です。四国がんと愛大附属では他医療圏からの患者割合が大きく、他の拠点病院では病院の所在する医療圏の患者の登録割合が大きいです。



◆ 4-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表I-13)

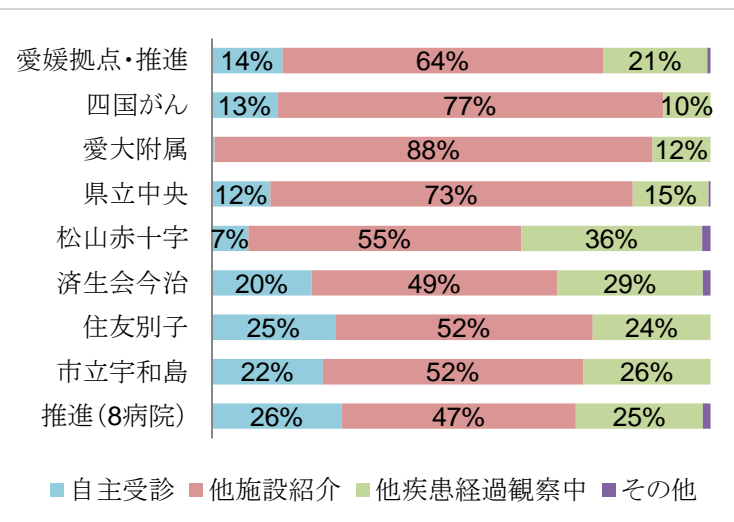
■ 4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合 ■

新規の症例のうち78%がその病院で初回治療を受けています。初回治療を開始した症例の割合は74%です。初回治療症例の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的でその病院をはじめて受診した症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表K-13)

■ 4-4 来院経路 ■

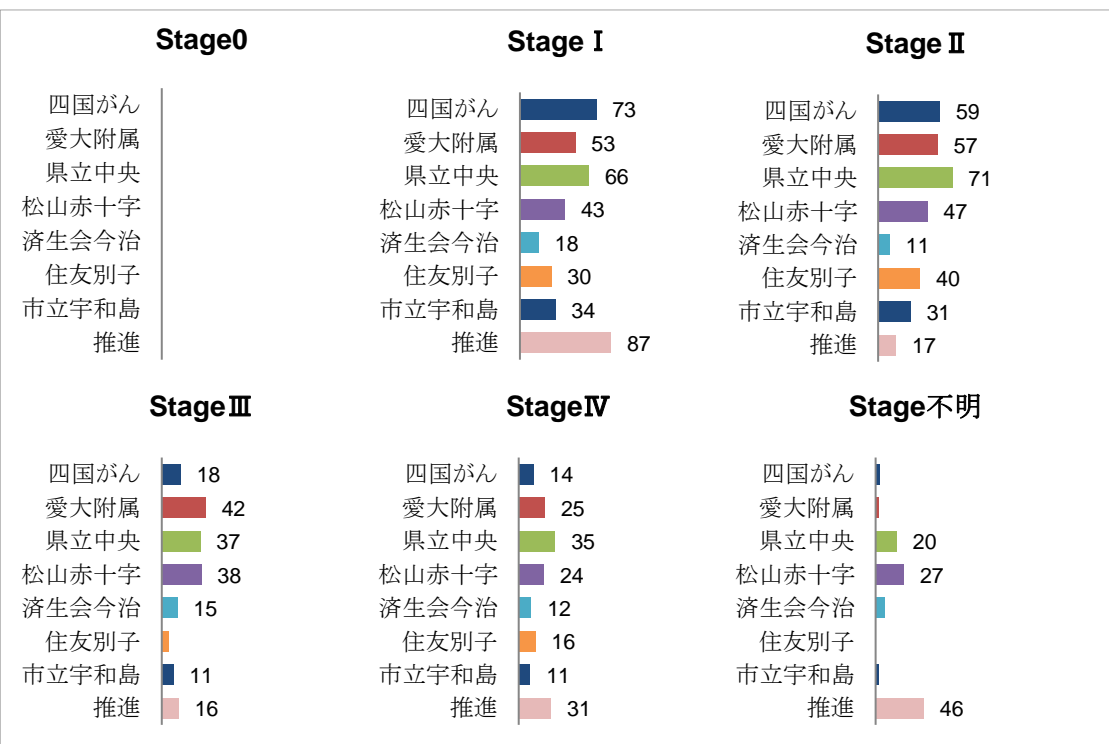


拠点・推進病院を受診した患者の64%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-13)

■ 4-5 病期別の件数 ■

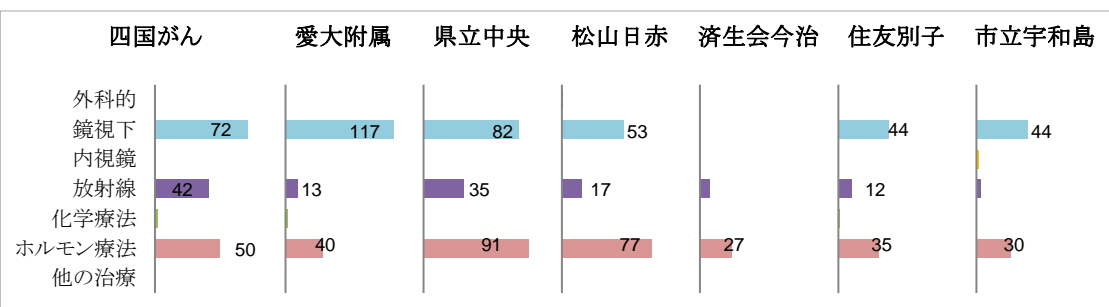
術後のステージも加味した総合ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在しています。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Y-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。

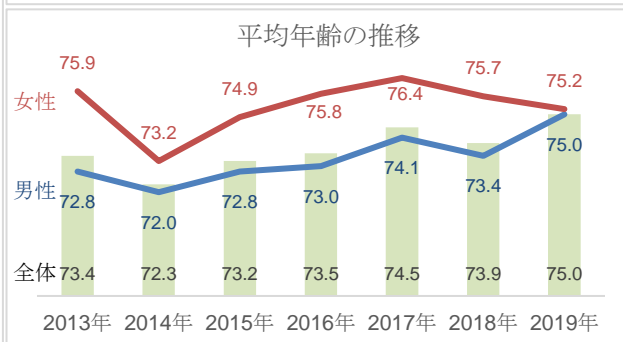
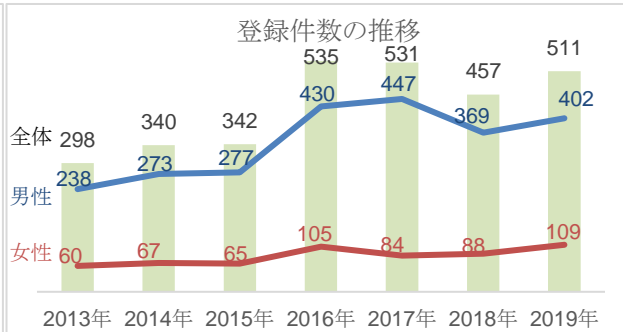
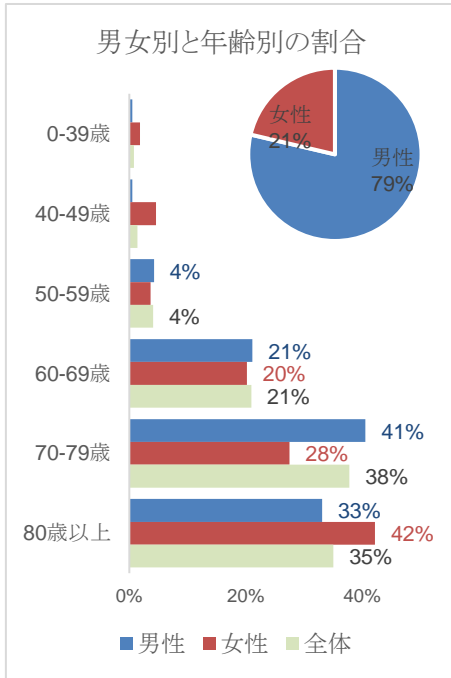


◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Y-6)

● 1 診断 ●

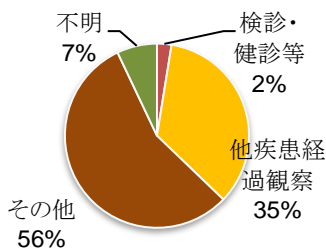
● 1-1 登録状況 ●

膀胱癌は、男性高齢者に多いがんです。男性が79%と多く、60歳以上で90%以上を占めています。



◆ 1-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-17)
(付録資料:表B-14)
(付録資料:表C-14)
(付録資料:表D-14)

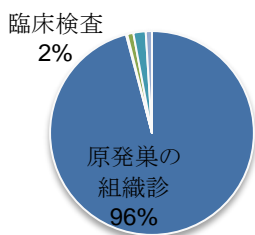
● 1-2 がんが発見される経緯 ●



膀胱がんは検診の対象ではないのがん検診や健康診断などで発見される割合は少ない(2%)です。血尿などの自覚症状等で発見された割合が56%と最も多く、次いで、他の疾患の経過観察中に発見された割合が35%です。

◆ 1-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表F-14)

● 1-3 診断 ●



膀胱鏡検査や経腹的超音波検査により腫瘍を確認し、生検や経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)により採取した腫瘍組織を病理学的に確認することで確定診断されます。愛媛県の院内がん登録のデータでは、最終的に96%が組織学的に診断され、その約9割が尿路上皮系です。

◆ 1-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表G-14)

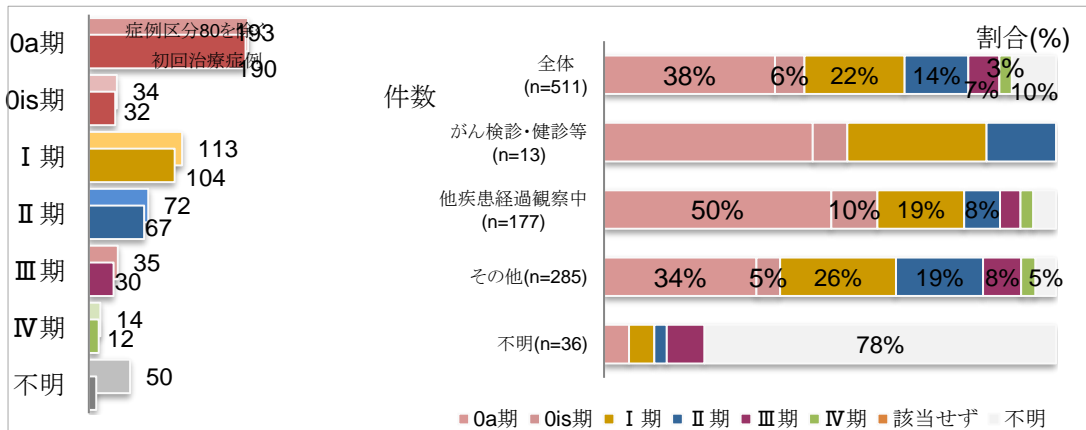
● 1-4 詳細部位 ●

局在コード	部位名	登録数
C67.0	膀胱三角	22
C67.1	膀胱円錐	15
C67.2	膀胱側壁	200
C67.3	膀胱前壁	22
C67.4	膀胱後壁	50
C67.5	膀胱頸部	31
C67.6	尿管口	49
C67.7	尿膜管	4~6
C67.8	膀胱の境界部病巣	1~3
C67.9	膀胱、NOS	117

◆ 1-4 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く

● 1-5 病期(総合ステージ) ●

511件のうち、0a期がもっとも多く38%、I期が22%であり、筋層非浸潤癌が約7割を占めています。



◆ 1-5 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Z-3)
(付録資料:表Z-4)
(付録資料:表H-14)

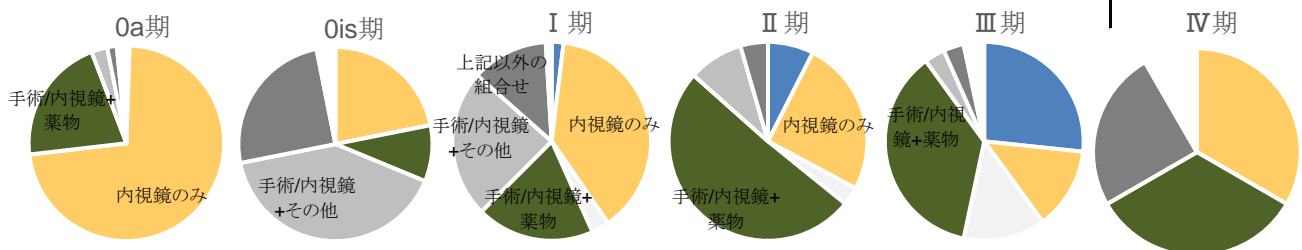
● 2 治療 ●

● 2-1 膀胱がんの治療 ●

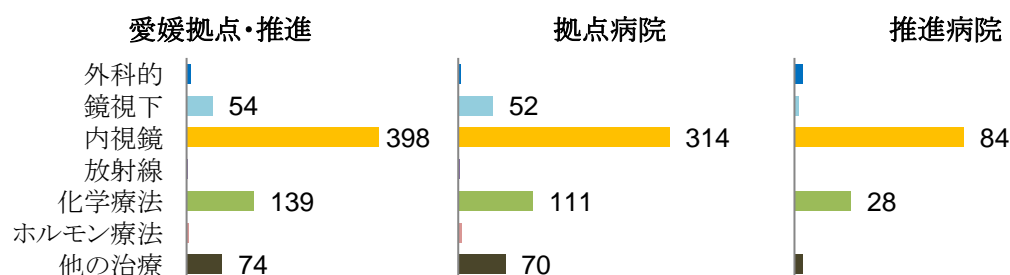
ステージ別にみると、0a期、I期では、経尿道的切除術(TURBT)のみ(表では内視鏡のみ)で治療された割合が最も多く、続いて、TURBT等の切除術に抗癌剤・BCG等の薬物治療を組み合わせた治療法が多い。

◆ 2-1 資料
院内がん登録
総合ステージ別
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Z-5)

	stage0a		stage0is		stage I		stage II		stage III		stage IV	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
手術のみ	1~3	(1%)	0	(1%)	1~3	(2%)	4~6	(4%)	7~9	(8%)	0	(3%)
内視鏡のみ	138	(50%)	7~9	(24%)	40	(38%)	17	(32%)	4~6	(14%)	4~6	(16%)
手術+内視鏡	0	(0%)	0	(1%)	1~3	(1%)	1~3	(6%)	4~6	(9%)	0	(1%)
手術/内視鏡+薬物	40	(35%)	1~3	(13%)	20	(26%)	34	(35%)	11	(40%)	4~6	(25%)
手術/内視鏡+その他	4~6	(7%)	13	(33%)	25	(19%)	4~6	(5%)	1~3	(1%)	0	(0%)
上記以外の組合せ	1~3	(5%)	7~9	(26%)	13	(12%)	1~3	(15%)	1~3	(18%)	1~3	(27%)
治療なし	1~3	(1%)	1~3	(2%)	1~3	(2%)	0	(4%)	1~3	(10%)	1~3	(28%)
合計	190		32		104		67		30		12	



● 2-2 各治療の件数 ●



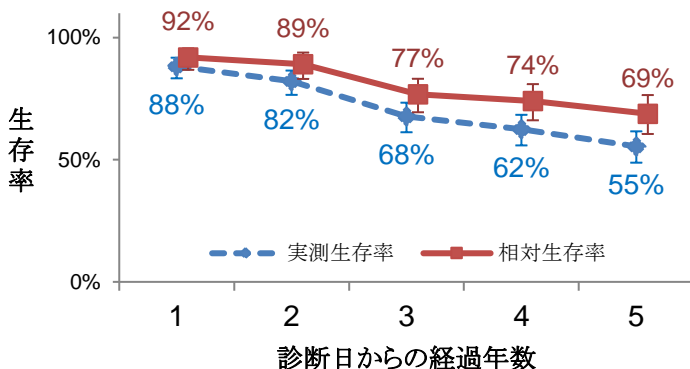
◆ 2-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Z-6)

● 3 予後 ●

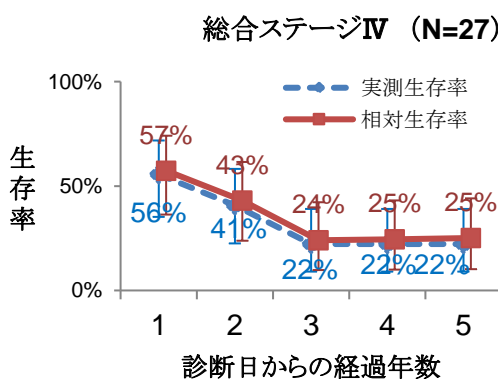
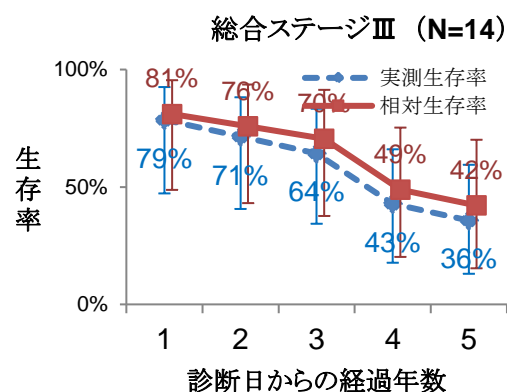
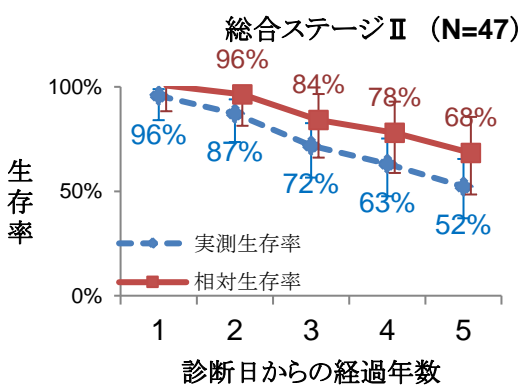
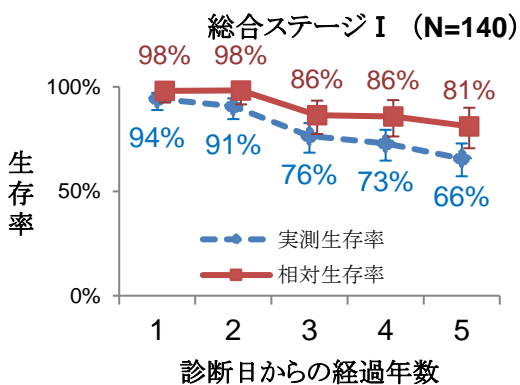
● 3-1 5年相対生存率 ●

2012年と2013年に診断された症例の5年生存率は、実測生存率55.5% (95%信頼区間 48.8 - 61.6)、相対生存率68.9% (95%信頼区間 60.6 - 76.5)でした。集計対象数は230、うち77%が男性、年齢別では70歳代以上で約70%を占めています。ステージ別の内訳は0期を集計対象外としているため、I期が61%、II期20%、III期6%、IV期12%となっています。

	N	*予後判明率 99.1%					
		実測生存率			相対生存率		
		95%信頼区間	95%信頼区間		95%信頼区間	95%信頼区間	
1年	203	0.883	0.834	0.918	0.919	0.868	0.956
2年	188	0.822	0.766	0.865	0.892	0.831	0.939
3年	155	0.677	0.613	0.734	0.768	0.695	0.832
4年	143	0.625	0.559	0.684	0.740	0.662	0.810
5年	126	0.555	0.488	0.616	0.689	0.606	0.765



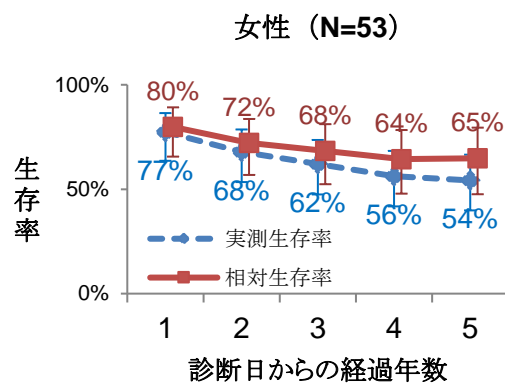
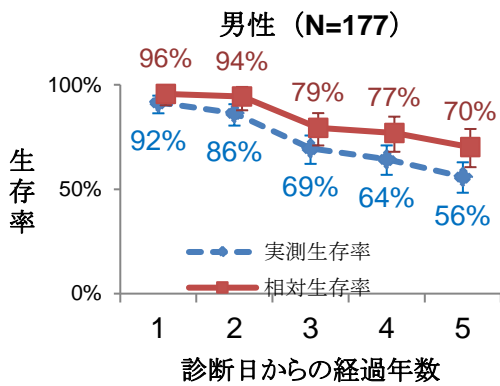
● 3-2 ステージ別 5年相対生存率 ●



◆ 3-1 資料
院内がん登録
集計対象:
▶ 拠点のみ
▶ 2012-2013年診断
▶ 症例区分2,3のみ
▶ 100歳未満
▶ 総合ステージ
0期除く

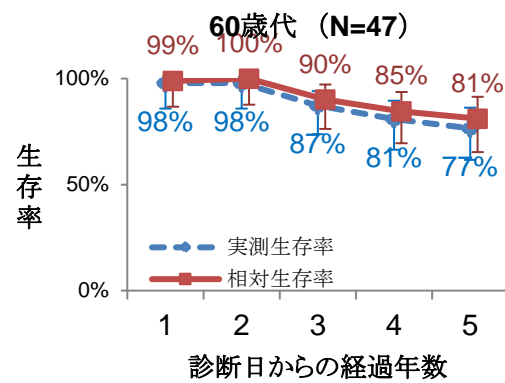
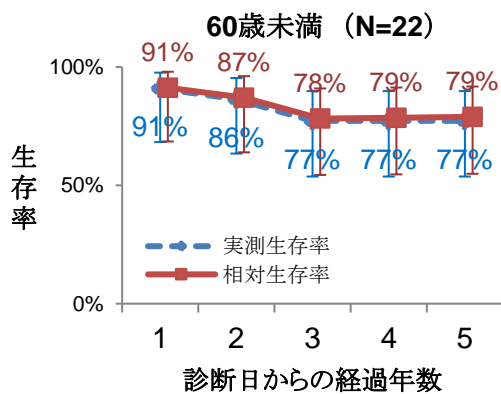
◆ 3-2 資料
院内がん登録
集計対象:
▶ 拠点のみ
▶ 2012-2013年診断
▶ 症例区分2,3のみ
▶ 100歳未満
▶ 総合ステージ
0期除く
(付録資料:表n-1)

● 3-3 性別 5年相対生存率 ●

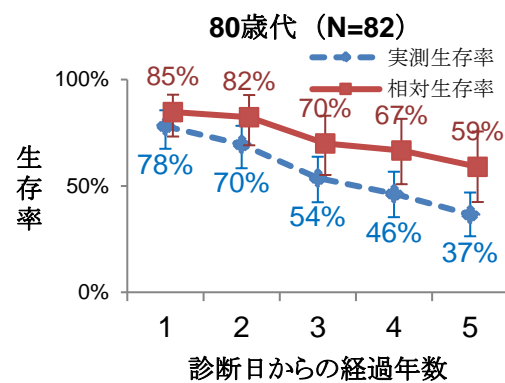
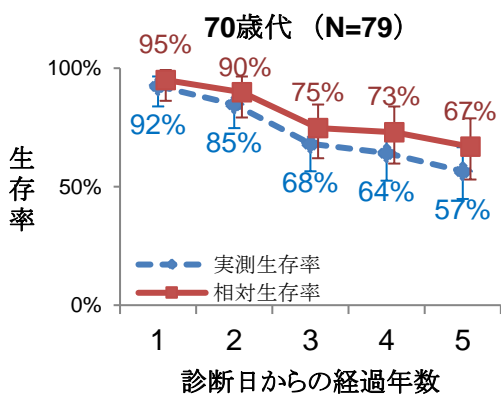


◆ 3-3 資料
 院内がん登録
 集計対象:
 ▶拠点のみ
 ▶2012-2013年診断
 ▶症例区分2,3のみ
 ▶100歳未満
 ▶総合ステージ
 0期除く
 (付録資料:表n-2)

● 3-4 年齢群別 5年相対生存率 ●

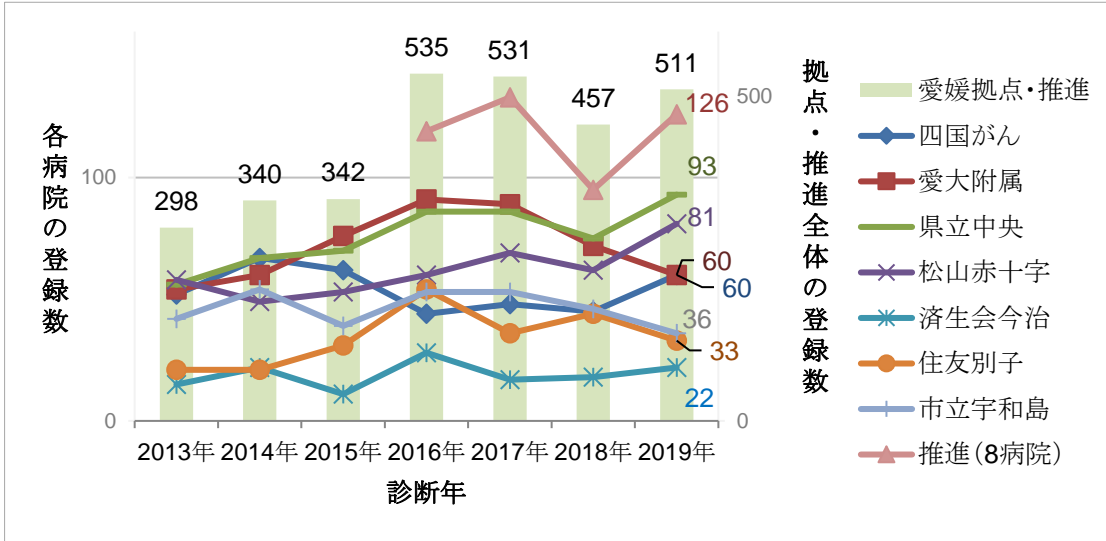


◆ 3-4 資料
 院内がん登録
 集計対象:
 ▶拠点のみ
 ▶2012-2013年診断
 ▶症例区分2,3のみ
 ▶100歳未満
 ▶総合ステージ
 0期除く
 (付録資料:表n-3)



■ 4-1 登録件数の推移 ■

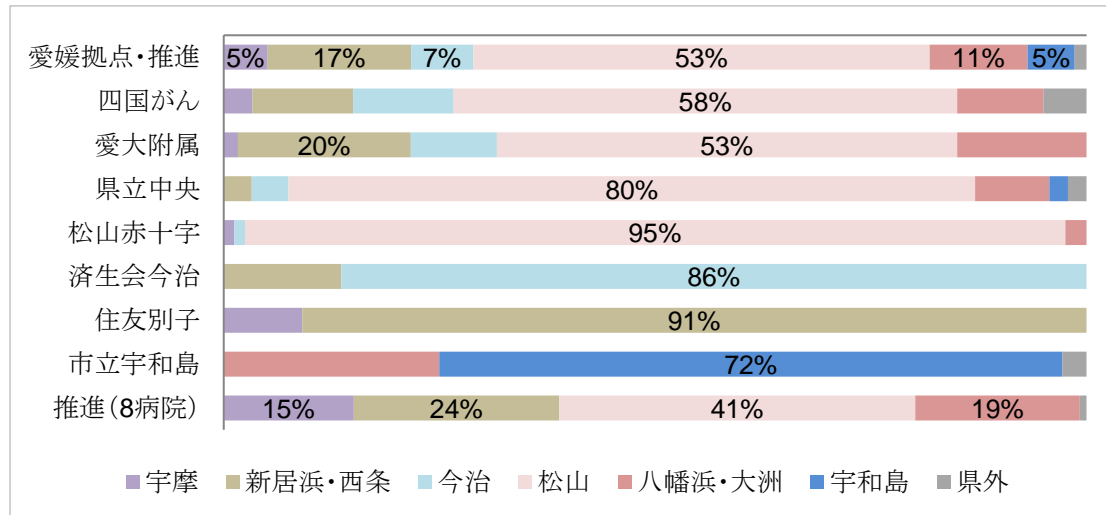
膀胱がんの登録件数は、県全体では300件前後でしたが、2016年診断症例以降、推進病院の情報も加わっているため増えています。2019年診断症例の登録件数は511件です。



◆ 4-1 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2013-2019年診断
▶症例区分8, 80除く
(付録資料:表A-17)

■ 4-2 診断時の住所(二次医療圏別) ■

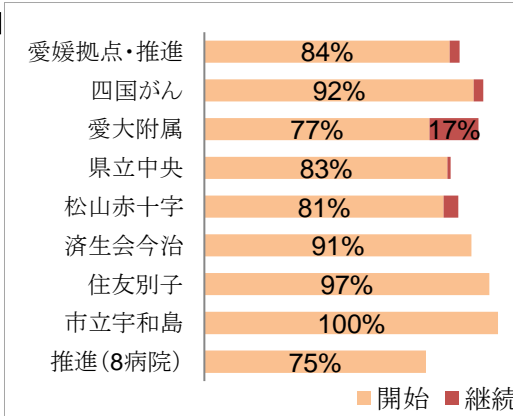
診断時の居住地の割合を示しています。拠点・推進病院全体では53%が松山圏域の患者です。四国がんと愛大附属では他医療圏からの患者割合が大きく、他の拠点病院では病院の所在する医療圏の患者の登録割合が大きいです。



◆ 4-2 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表I-14)

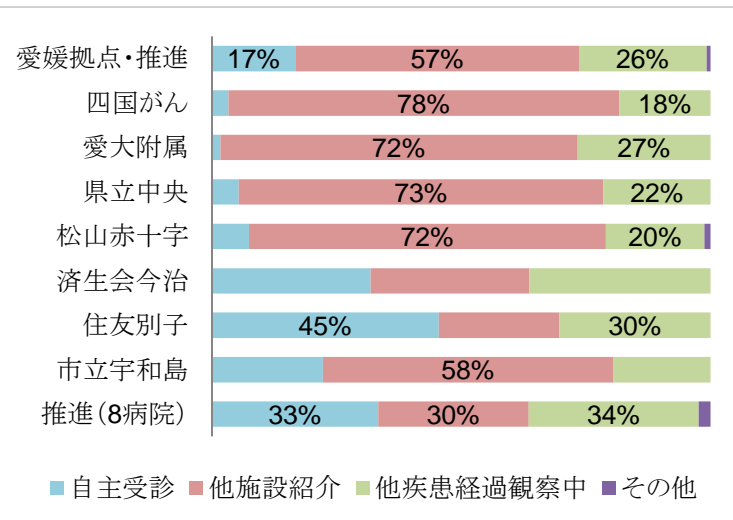
■ 4-3 治療(初回治療)を行った症例の割合 ■

新規の症例のうち87%がその病院で初回治療を受けています。初回治療を開始した症例の割合は84%です。初回治療症例の割合は病院により差があり、治療症例の割合が低い施設では、診断のみを行った症例や再発治療目的でその病院をはじめて受診した症例が多いことを示しています。



◆ 4-3 資料
院内がん登録
集計対象：
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表K-14)

■ 4-4 来院経路 ■

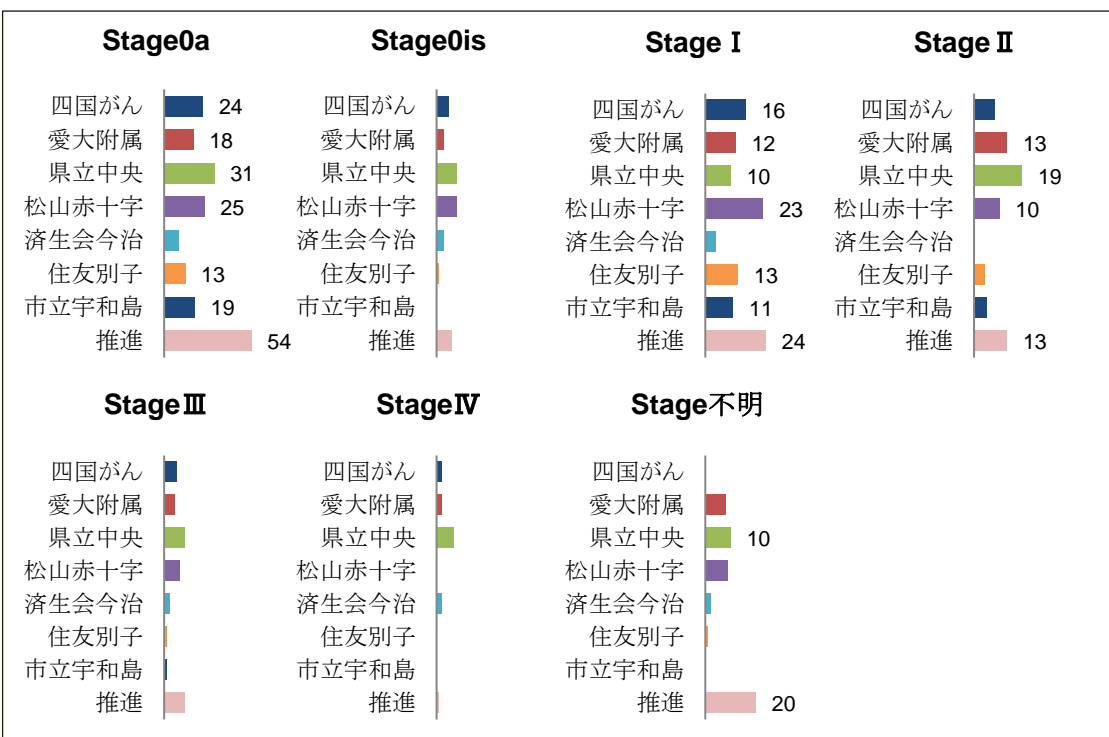


拠点・推進病院を受診した膀胱がん患者の57%が他施設からの紹介受診です。紹介なく、自主受診した割合は、病院により異なりますが、地域での役割や病院特性などを表していると考えられます。

◆ 4-4 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
(付録資料:表L-14)

■ 4-5 病期別の件数 ■

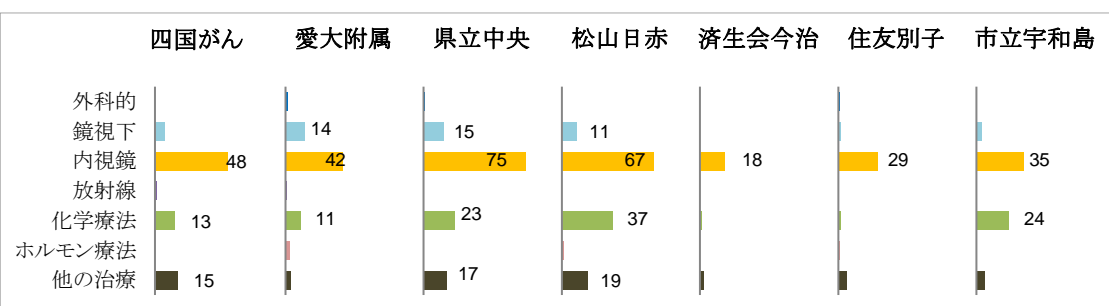
術後のステージも加味した総合ステージ別に、各病院の登録数を示しています。その病院では初回治療を行っていない症例も含まれています。そのため、ステージに関する十分な情報がない症例も含まれており、ステージ不明が一定数存在しています。



◆ 4-5 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点・推進
▶2019年診断
▶症例区分80除く
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Z-3)

■ 4-6 治療の件数 ■

各病院で行われた初回治療の件数です。内視鏡(TUR)による治療は多くの施設で行われていますが、その他の外科治療や化学療法は登録数に偏りがあります。



◆ 4-6 資料
院内がん登録
集計対象:
▶拠点のみ
▶2019年診断
▶症例区分20-31
▶病期集計対象のみ
(付録資料:表Z-6)